

第 1 章

総論

1 計画策定の趣旨・目的

人口減少及び少子高齢社会の到来、情報化の進展、人間関係の希薄化など、近年、わたしたちを取り巻く社会が大きく変動する中、健康づくりや生きがいつくりの意識が高まり、スポーツの役割や意義は近年において多様化し、その重要性が増しています。令和2(2020)年には世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響により、政府が全国に「緊急事態宣言」を発出する事態となりました。「緊急事態宣言」発出に伴う外出自粛要請により、様々な活動が制限される中で、スポーツの分野においても、今後、新しい生活様式に基づく「新しいスポーツのあり方」等について検討していく必要があります。

国においては、社会情勢や環境の変化を踏まえ、新たな課題に対応するために、平成 23(2011)年8月に、「スポーツ振興法」を50年ぶりに全部改正した「スポーツ基本法」が施行され、平成 24(2012)年3月にはこのスポーツ基本法に基づいた「スポーツ基本計画」が策定されました。さらに、平成 27(2015)年10月には、スポーツ基本法の趣旨を踏まえ、スポーツに関する施策を総合的に推進する「スポーツ庁」が設置されました。また、ラグビーワールドカップ2019™日本大会や東京 2020 オリンピック・パラリンピックなどの大規模な国際スポーツ大会の日本開催が連続して決定されたことは、スポーツに取り組む機運の醸成に大きな影響を与えていると考えられます。この機会を活用し、スポーツが多様な社会課題の解決に貢献するという気付きを促す効果が期待されています。

三郷市においては、平成 22(2010)年10月に「三郷市スポーツ振興基本計画」を策定し、市民のスポーツ活動を推進してきました。平成 28(2016)年には、東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催をきっかけとして、ギリシャ共和国のホストタウンとして登録され、以降様々な交流を進めています。また、平成 30(2018)年6月には日本陸上競技連盟が認定する第4種公認陸上競技場である「三郷市陸上競技場」が完成し、新たな市民のスポーツ活動の場として期待されています。

本市では、「スポーツ健康都市」を宣言してから令和2(2020)年で30年を迎えました。また、「三郷市スポーツ振興基本計画」の計画期間が終了することから、三郷市のスポーツ振興施策を総合的かつ計画的に推進し、市民のスポーツ活動の一層の振興を図れるよう、新たに「三郷市スポーツ推進計画」(以下、「本計画」という。)を策定します。

三郷市スポーツ健康都市宣言

わたくしたち三郷市民は、スポーツを愛し、スポーツに親しみ、健康で住みよい郷土をつくるため、ここにスポーツ健康都市を宣言します。

- 1 スポーツをとおり、健全な心と体をつくりましょう。
- 1 スポーツをとおり、仲間をつくり、友情の輪をひろめましょう。
- 1 スポーツをとおり、豊かな明るいまちづくりをすすめましょう。

(平成2(1990)年7月14日)

2 スポーツの定義

スポーツ基本法前文において、スポーツは、「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵(かん)養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」であると定義されています。

この考え方を踏まえ、本計画ではスポーツを幅広く捉え、競技としてのスポーツだけではなく、楽しむためのレクリエーション活動や、ウォーキングなどの健康づくりを目的とした軽く体を動かすような活動についても対象とします。

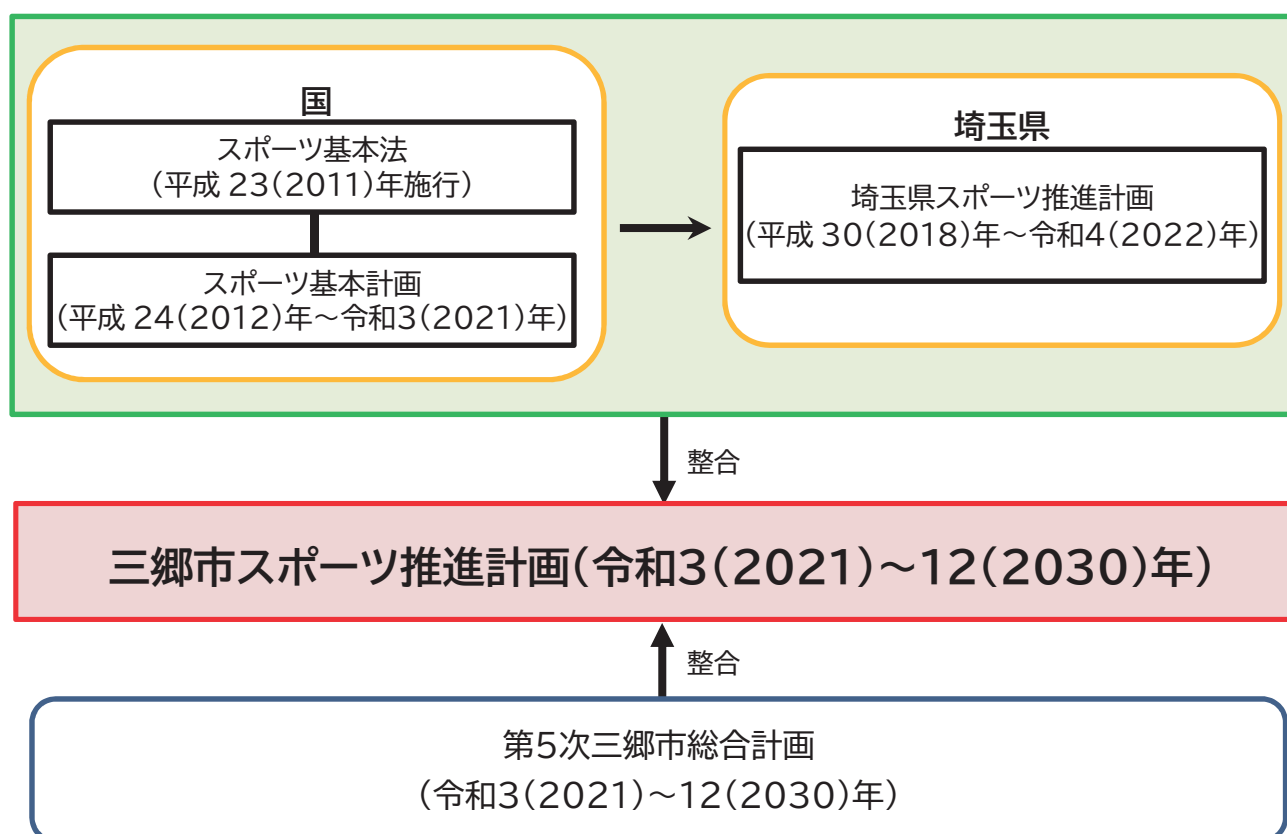
また、スポーツとの関わりについては、スポーツを「する」ことだけではなく、スポーツ観戦などのスポーツを「みる」こと、スポーツ指導やボランティアなどのスポーツを「ささえる」ことなども含まれます。

3 計画の位置づけと役割

本計画は、「スポーツ基本法第10条第1項」に基づく計画として策定するものです。

本計画は、本市のスポーツ推進に取り組む基本的方向を示すものであり、国のスポーツ基本計画や埼玉県スポーツ推進計画、第5次三郷市総合計画など、関連計画との整合性を踏まえて策定するものです。

なお、学校体育施設については、本計画の整備対象としますが、学校教育における保健体育の教育内容については、計画の対象外とします。



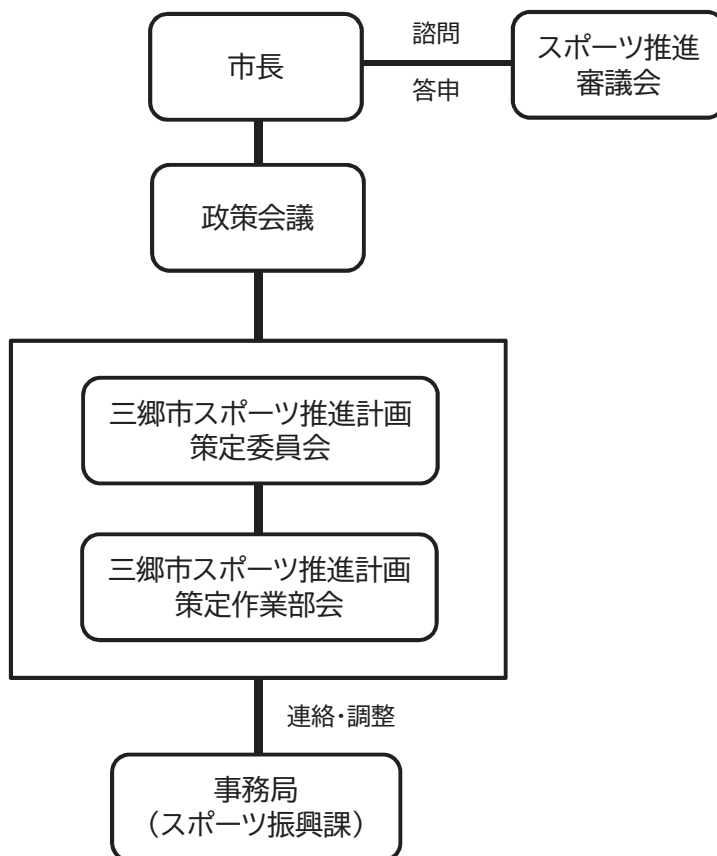
4 計画期間

本計画の期間は、「第5次三郷市総合計画」との整合性を図るため、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間とします。

令和 元年度 (2019)	令和 2年度 (2020)	令和 3年度 (2021)	令和 4年度 (2022)	令和 5年度 (2023)	令和 6年度 (2024)	令和 7年度 (2025)	令和 8年度 (2026)	令和 9年度 (2027)	令和 10年度 (2028)	令和 11年度 (2029)	令和 12年度 (2030)

5 計画の策定体制

本計画は、策定委員会及び策定作業部会における検討はもとより、スポーツ推進審議会での審議を踏まえて策定します。



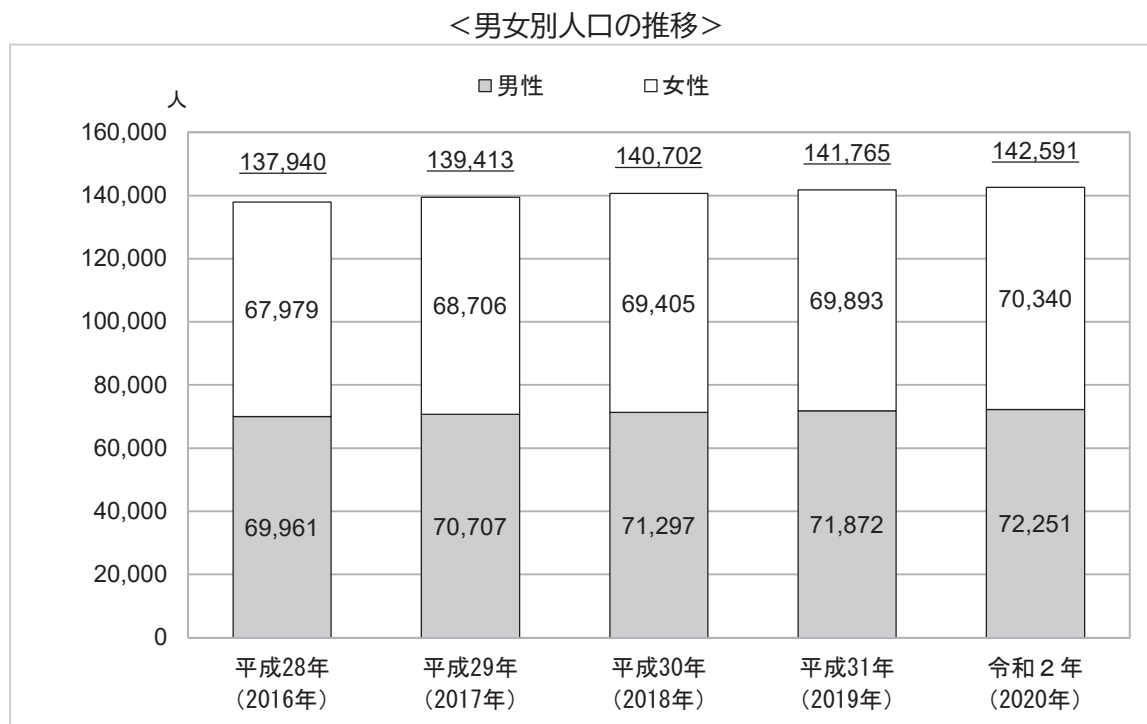
6 三郷市の現状と課題

(1)現状

①三郷市を取り巻く現状

【男女別人口の推移】

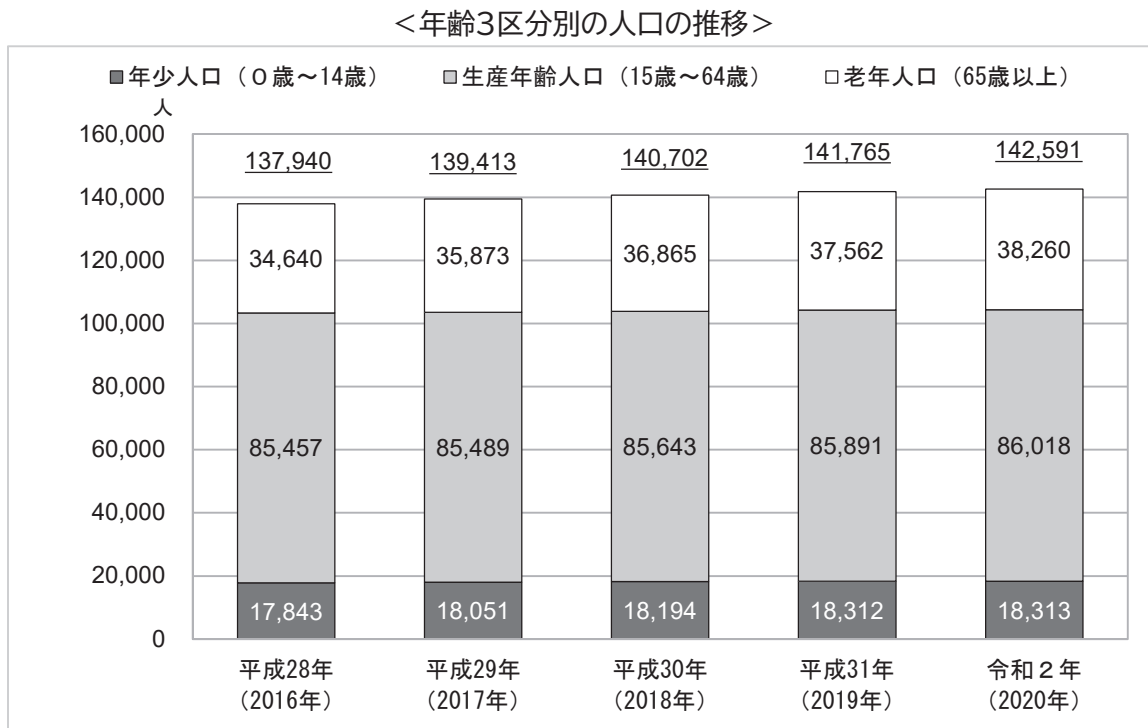
本市の総人口は増加傾向にあり、平成 30(2018)年に 140,000 人を超え、令和2(2020)年には 142,591 人となっています。



資料:みさと統計書(各年4月1日)

【年齢3区分別人口の推移】

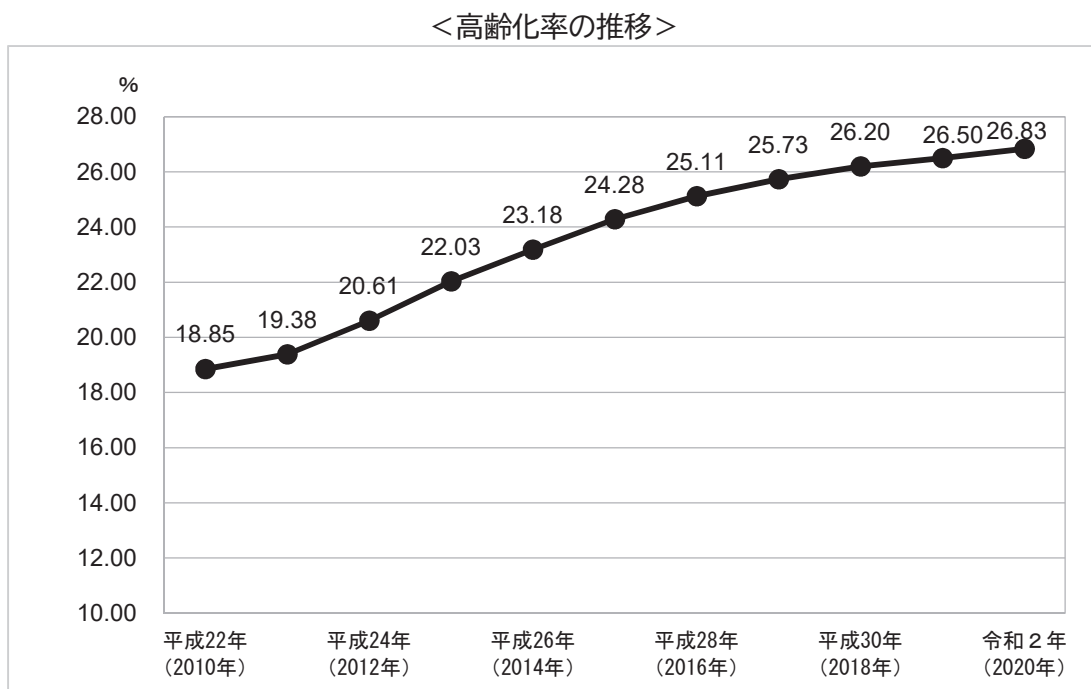
年齢3区分で見ると、年少人口(0歳～14歳)と生産年齢人口(15～64歳)は伸びが鈍化しており、老年人口(65歳以上)が増加しています。



資料:みさと統計書(各年4月1日)

【高齢化率の推移】

本市の高齢化率は上昇傾向にあり、令和2(2020)年の高齢化率は26.83%と、4人に1人以上が高齢者という超高齢社会となっています。



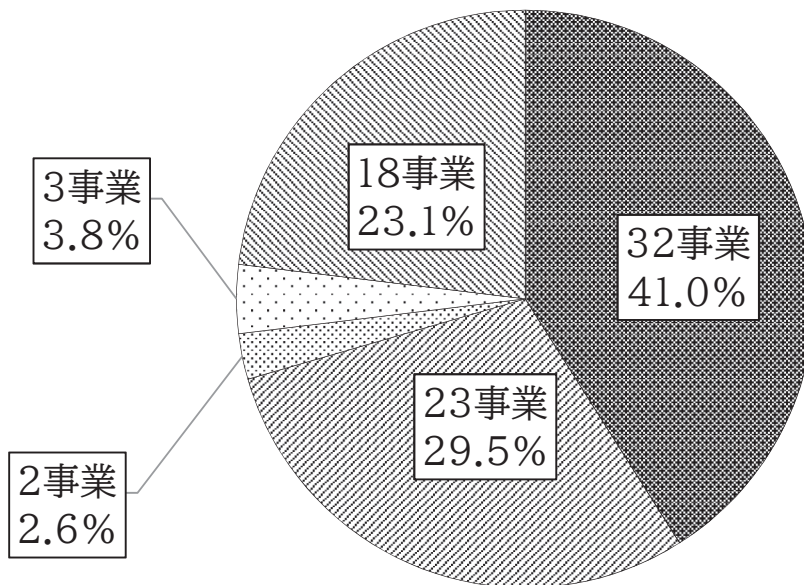
資料:みさと統計書(各年4月1日)

②三郷市スポーツ振興基本計画の事業実施状況調査結果

本計画を策定するにあたり、三郷市スポーツ振興基本計画(以下、「前計画」という。)について、全事業の進捗状況確認を行いました。

前計画では、3つの基本方針に基づく6つの重要施策を設定し、それに伴う78の事業の進捗管理を行ってきました。ここでは直近の平成30(2018)年度の事業評価をまとめています。

全78事業の進捗状況の評価



■5:十分 ■4:ある程度 ■3:あまり十分でない □2:不十分 ■1:未実施

【進捗状況 全体結果】

基本方針	重要 施策	項目	進捗状況※					事業数
			5	4	3	2	1	
1 交流	1	スポーツを する	11	7	0	1	7	26
	2	スポーツに したしむ	12	7	1	1	6	27
2 活力	1	スポーツを たかめる	4	5	0	1	0	10
	2	スポーツを みる	1	1	1	0	1	4
3 地域力	1	スポーツを ささえる	1	1	0	0	3	5
	2	スポーツで はぐくむ	3	2	0	0	1	6
計			32	23	2	3	18	78
			41.0%	29.5%	2.6%	3.8%	23.1%	

※進捗状況の評価

5:十分 4:ある程度 3:あまり十分でない 2:不十分 1:未実施

事業の進捗評価を行った全 78 事業中、「5:十分」という評価の事業は 32 事業(41.0%)、「4:ある程度」という評価の事業は 23 事業(29.5%)で、全体の約7割の事業については、ある程度の成果が得られています。特に「基本方針2 活力」の「1. スポーツをたかめる」と、「基本方針3 地域力」の「2. スポーツではぐくむ」で高評価の事業が多く、スポーツ・レクリエーション拠点に関する事業や、スポーツ少年団等の活動支援など、子どものスポーツ活動の支援に関する事業などが含まれています。

一方で、「3:あまり十分でない」という評価の事業は2事業(2.6%)、「2:不十分」という評価の事業は3事業(3.8%)、「1:未実施」という評価の事業は 18 事業(23.1%)となっており、約3割の事業が不十分、未実施といった状況です。

「3:あまり十分でない」には、報道機関との連携や広域競技スポーツ大会の誘致、「2:不十分」には、団体等への加入促進、スポーツ事故の防止、民間スポーツ教室等との連携といった事業が含まれています。また、「1:未実施」には、スポーツ医学の活用や障がい者スポーツ用具の購入補助、スポーツ観戦ツアーの企画などの事業が含まれています。

なお、進捗状況があまりよくなかった事業(「3:あまり十分でない」、「2:不十分」、「1:未実施」の事業)については、あらためてその事業の内容等の必要性や有効性などを総合的に勘案し、本計画の策定に向けた事業の見直し等の検討が必要となります。

③市民アンケート等の結果

市民のスポーツ活動の意識や活動状況、意見・要望等を把握し、今後のスポーツ推進の参考とするため、あわせて「三郷市スポーツ振興基本計画」の進捗評価として活用するためアンケート調査及びヒアリング調査を実施しました。

○アンケート調査

市民	調査対象	市内在住の18歳以上の男女2,000人(無作為抽出)
	調査期間	令和元(2019)年9月12日(木)～9月27日(金)
	調査方法	郵送配布－郵送回収
	回収数	894人(回収率44.7%)
団体	調査対象	令和元年8月1日現在、市内で活動するスポーツ・レクリエーション団体300団体
	調査期間	令和元(2019)年9月12日(木)～9月27日(金)
	調査方法	郵送配布－郵送回収
	回収数	213団体(回収率71.0%)
子ども	調査対象	市内の小学5年生、中学2年生2,200人
	調査期間	令和元(2019)年9月12日(木)～9月27日(金)
	調査方法	学校配布－学校回収
	回収数	1,929人(回収率87.7%)

※集計は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位まで示しているため、各%をたしあけても100.0%にならない場合があります。

○ヒアリング調査

障がい者 関連団体	調査対象	ワークセンターしいの木、知的障がいのある人たちに競技会等を提供する団体 各1団体
	調査期間	令和元(2019)年9月19日(木)～10月8日(火)
	ヒアリング 内容	1. 活動内容 2. 団体人数 3. 活動頻度 4. スポーツ活動の有無(またその内容) 5. 身体を動かすこと、スポーツが好きか嫌い 6. スポーツ活動の際の利用施設、施設の満足度 7. 自由意見

市内 高校生	調査対象	市内高等学校3校の部活動に所属している生徒及び所属していない生徒33名
	調査期間	令和元(2019)年9月19日(木)～10月8日(火)
	ヒアリング 内容	1. 運動・スポーツは好きか嫌い 2. 所属する部活動、入部した理由 3. 今後の運動・スポーツの活動意向等 3-1. セナリオハウスフィールド三郷の利用経験・使用した感想 3-2. 総合体育館の利用経験・使用した感想 4. 過去1年間にスポーツ・レクリエーションのボランティア参加経験の有無 5. 障がい者スポーツへの関心

【スポーツやレクリエーション活動の頻度】(市民、子どもアンケート)

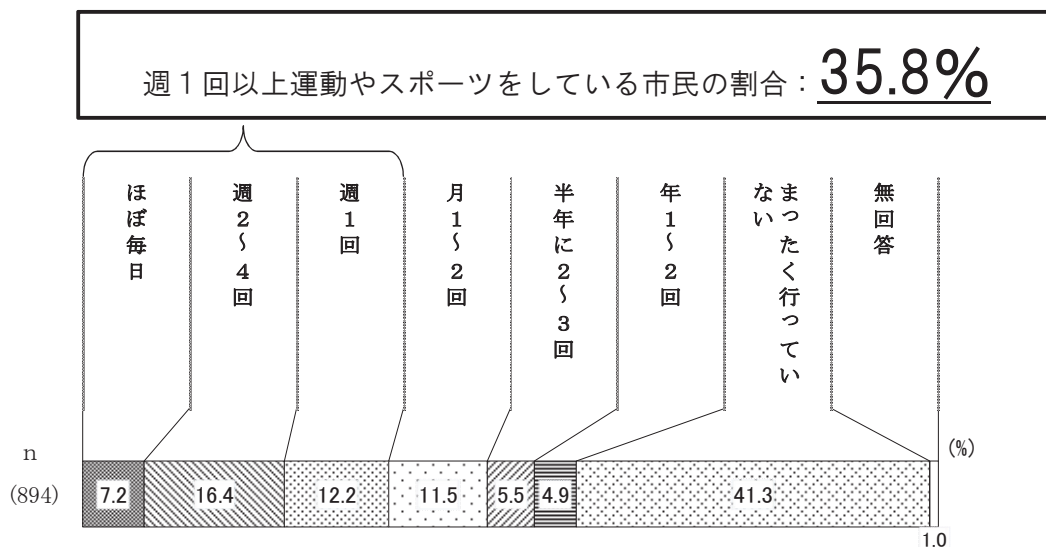
- 約4割の人が週1回以上、スポーツやレクリエーションを行っています。
- 働く世代、子育て世代を含めた若年層でスポーツ実施率が低い傾向にあります。
- 子どもにおいては約9割が週1日以上、スポーツやレクリエーションを行っています。
- 約6割の子どもが、学校の運動部や、それ以外のスポーツ団体に入っています。

市民アンケートでは、スポーツやレクリエーション活動を週1回以上実施した人の割合(スポーツ実施率)は全体で35.8%となっており、前回調査からはわずかに上昇し、埼玉県とは同程度となっていますが、全国と比べると、改善の余地がある結果となっています。

年代別で見ると、60代、70歳以上で全体の割合を上回っていますが、働く世代・子育て世代でもある30代では3割を下回っており、若い世代の実施率が低い傾向にあります。

子どもアンケートでは、スポーツ実施率は87.6%で、そのうちの約6割が「ほとんど毎日やっている」と回答しています。また、学校の運動部やそれ以外のスポーツ団体に入っている子どもは約6割となっています。

◇市民アンケート



◇全国・埼玉県・経年比較

全国	埼玉県	三郷市	三郷市(前回)
53.5%	36.6%	35.8%	32.6%

出典:全国 スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査(令和元(2019)年度)」

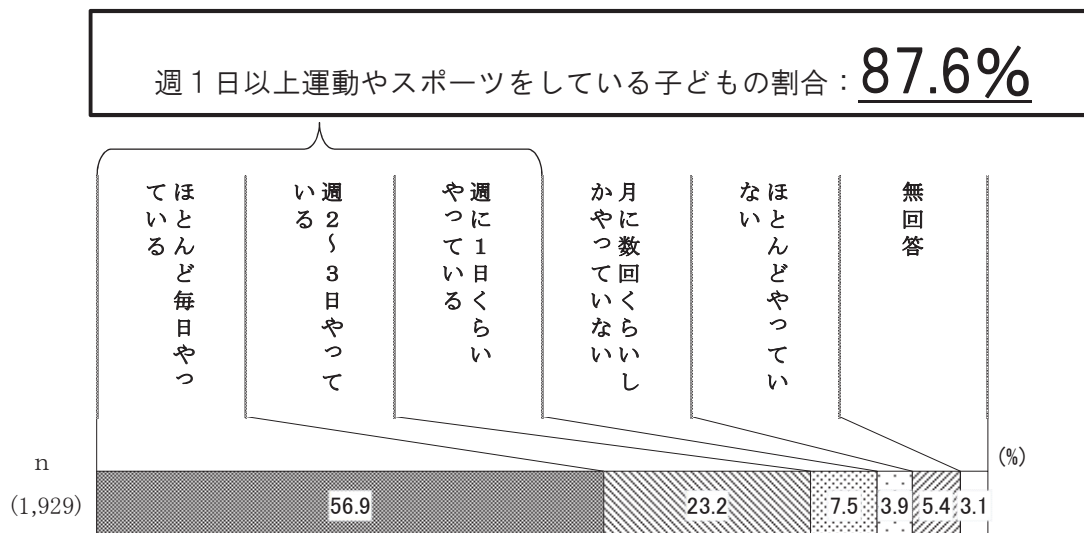
埼玉県 埼玉県「スポーツに関する県民意識・実態調査」(平成28(2016)年度)

三郷市(前回) 三郷市「スポーツ振興基本計画策定のための市民意識調査」(平成21(2009)年度)

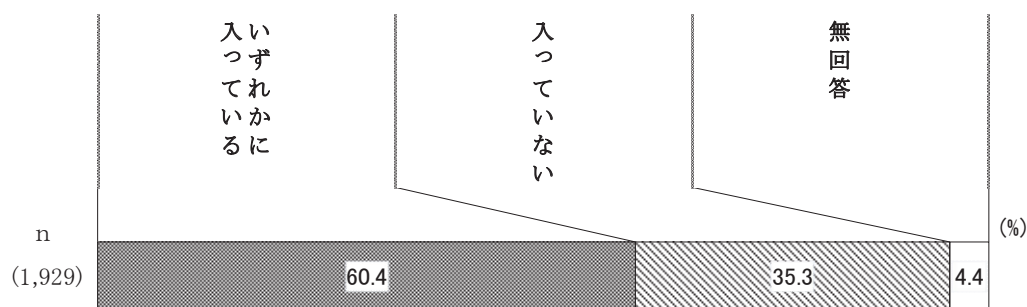
◇市民アンケート・年代別

年齢	18〜29歳	30〜39歳	40〜49歳	50〜59歳	60〜69歳	70歳以上
週1回以上スポーツ実施率	32.8%	26.7%	31.6%	31.0%	36.5%	47.2%

◇子どもアンケート



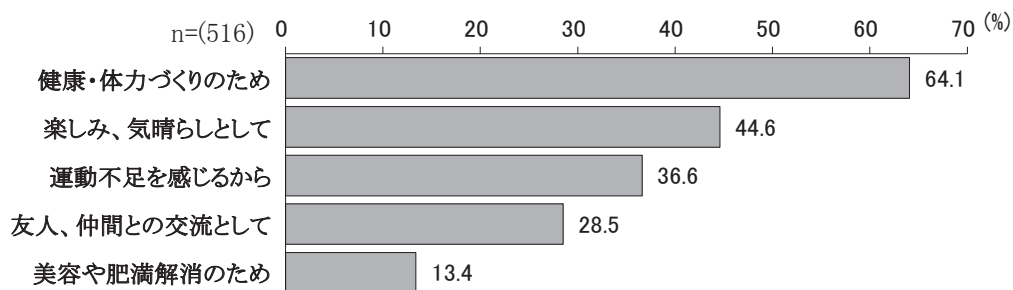
◇運動・スポーツ団体に加入している子どもの割合(子どもアンケート)



【スポーツやレクリエーション活動の目的】(市民アンケート 上位5項目)

●健康・体力づくりのためにスポーツを行っている人が多いです。

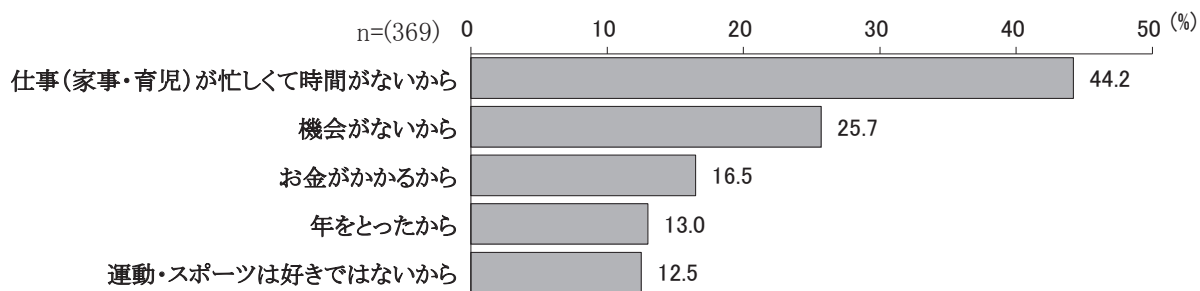
「健康・体力づくりのため」が 64.1%で最も多く、次いで「楽しみ、気晴らしとして」が 44.6%、「運動不足を感じるから」が 36.6%となっています。



【スポーツやレクリエーション活動を行っていない理由】(市民アンケート 上位5項目)

●仕事や家事・育児に追われてスポーツをする時間を取れない人が多くなっています。

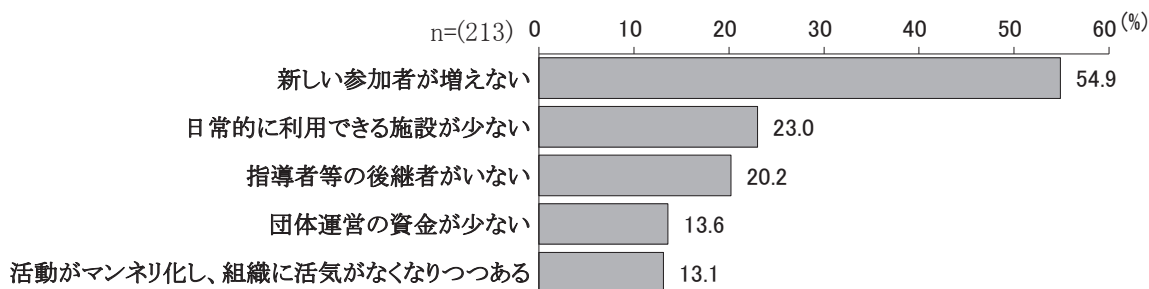
「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がないから」が 44.2%と最も多く、次いで「機会がないから」が 25.7%となっています。



【団体の活動における問題点】(団体アンケート 上位5項目)

●新規参加者不足が大きな課題となっています。

「新しい参加者が増えない」が 54.9%で最も多く、次いで「日常的に利用できる施設が少ない」が 23.0%、「指導者等の後継者がいない」が 20.2%となっています。



【ボランティア活動への参加意向】(市民、子どもアンケート)

●ボランティアへの参加意向の向上を目指し、さらなる情報の周知が必要です。

市民アンケートでは、「行きたい」が 15.0%、「行きたいと思わない」が 53.4%となっており、前回調査と比べると、「できれば行きたい」が減少しています。

子どもアンケートでは、「行きたい」が 37.6%、「行きたいと思わない」が 31.5%、「わからない」が 29.3%で、行きたいという人が比較的多いものの、意見が分散しています。

また、市内高校生へのヒアリングからは、ボランティアに関するさらなる情報の周知が必要です。

	「行きたい」		「行きたいと思わない」		わからない	無回答
	ぜひ行きたい	できれば行きたい	あまり行きたいと思わない	まったく行きたいと思わない		
市民:令和元年度	0.8%	14.2%	34.7%	18.7%	28.8%	2.9%
市民:平成21年度	0.9%	20.5%	34.7%	18.4%	23.8%	1.7%
子どもアンケート	9.1%	28.5%	21.1%	10.4%	29.3%	1.6%

【三郷市の聖火リレールート認知度】(市民、子どもアンケート)

●約4割の人が「知っている」という結果で、引き続き周知が必要です。

●子どもにおいても約4割が「知っている」という結果となっています。

市民アンケートでは、「知っている」は40.0%で、そのうち「詳しく知っている」は全体で見ると1割未満(4.7%)です。

子どもアンケートでは、「知っている」は40.8%で市民アンケートと同程度です。

「知っている」

	詳しく知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
市民	4.7%	35.3%	57.0%	2.9%
子ども	6.3%	34.5%	53.0%	6.1%

【三郷市のホストタウン登録認知度】(市民、子どもアンケート)

●約5割の人が「知っている」という結果で、引き続き周知が必要です。

●一方、子どもについては、約6割が「知っている」という結果となっています。

市民アンケートでは、「知っている」は47.3%となっており、そのうち「詳しく知っている」は全体で見ると1割弱(7.0%)です。

子どもアンケートでは、「知っている」は64.5%と市民アンケートよりも高い数値となっています。

「知っている」

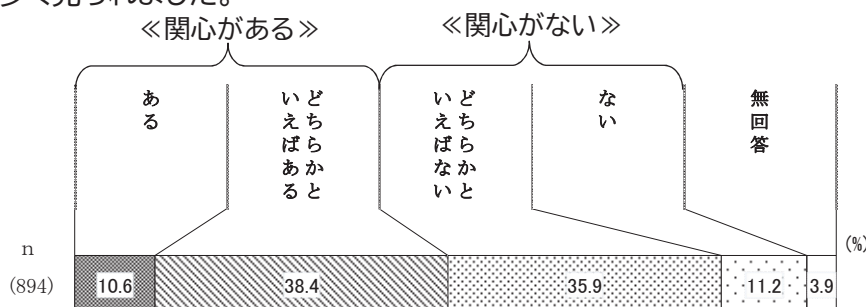
	詳しく知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
市民	7.0%	40.3%	49.6%	3.1%
子ども	28.6%	35.9%	29.5%	6.0%

【障がい者スポーツへの関心度】(市民アンケート)

●関心が「ある」・「ない」の割合は、同程度となっています。

「関心がある」は49.0%、「関心がない」は47.1%でほぼ同程度となっていますが、「どちらかといえばある」、「どちらかといえばない」が大半を占めており、まずは障がい者スポーツへの理解を深めていく必要があります。

市内高校生へのヒアリングでは、障がい者スポーツに関心がある理由として、テレビで見たという意見が多く見られました。



【障がい者スポーツの推進で市に望むこと】(市民、団体アンケート)

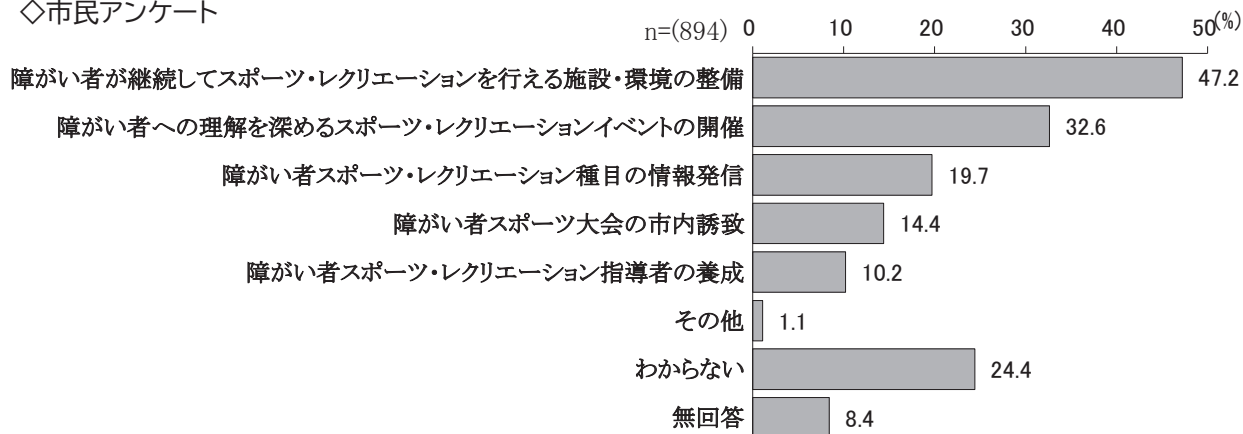
●施設整備を求める声が多くなっています。

●市民アンケートでは「わからない」という回答も2割以上となっています。

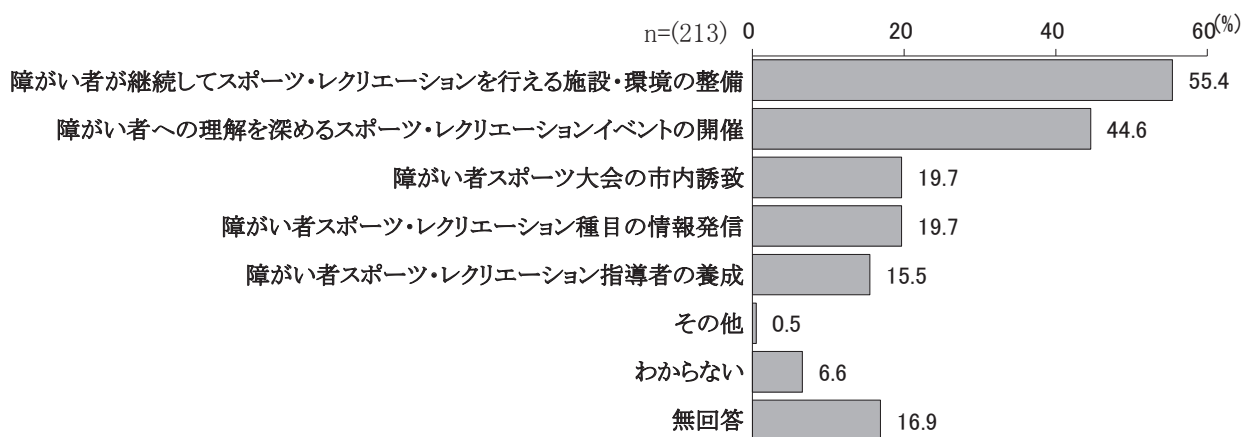
市民アンケート、団体アンケートともに「障がい者が継続してスポーツ・レクリエーションを行える施設・環境の整備」が約5割前後で最も多く、次いで「障がい者への理解を深めるスポーツ・レクリエーションイベントの開催」が多くなっています。一方で、市民アンケートでは「わからない」も24.4%となっています。

障がい者関連団体へのヒアリングでは、スポーツをする場所の確保が難しいという意見から、施設・環境整備の必要性が感じられます。また、身体障がい者と知的障がい者のスポーツに、ルール等の工夫やメディアでの扱われ方に差が生じており、地域での知的障がい者への理解を深めていくことが最も重要という意見も見られました。

◇市民アンケート



◇団体アンケート



【運動・スポーツ施設の利用有無と満足度】(市民アンケート)

●施設ごとに利用状況や満足度にばらつきが見られます。

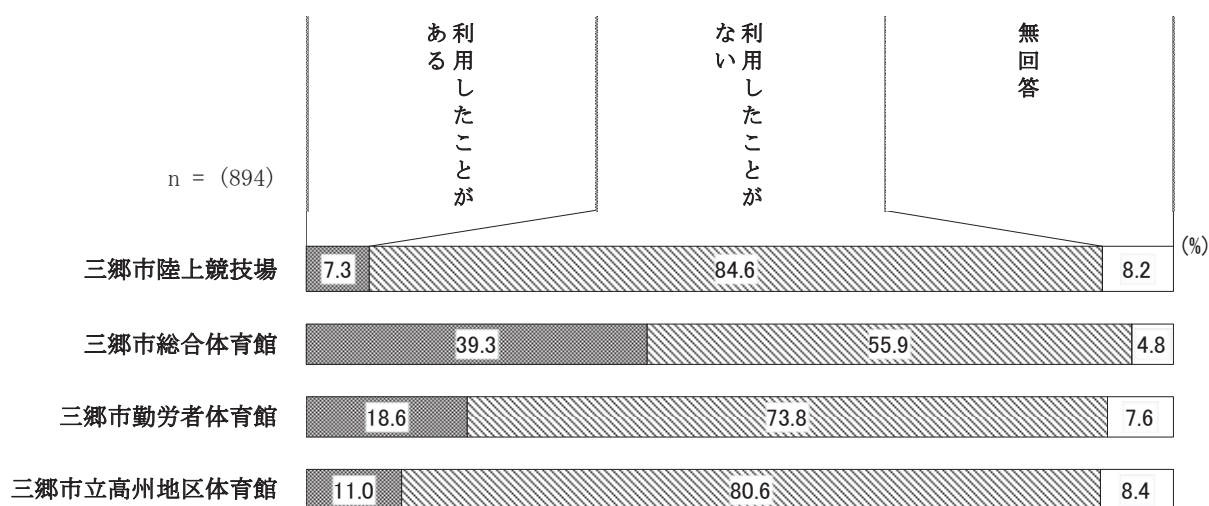
●「三郷市陸上競技場」は、利用経験のある人が少ない一方で、高い満足度となっています。

「三郷市陸上競技場」は平成30(2018)年6月に開場したこともあり、利用したことのある人が1割未満(7.3%)と他の施設に比べて低くなっていますが、《満足》は約9割(87.7%)と特に高くなっています。一方で、「三郷市総合体育館」は利用したことのある人が約4割(39.3%)で最も多くなっていますが、《満足》は約7割(68.4%)となっています。

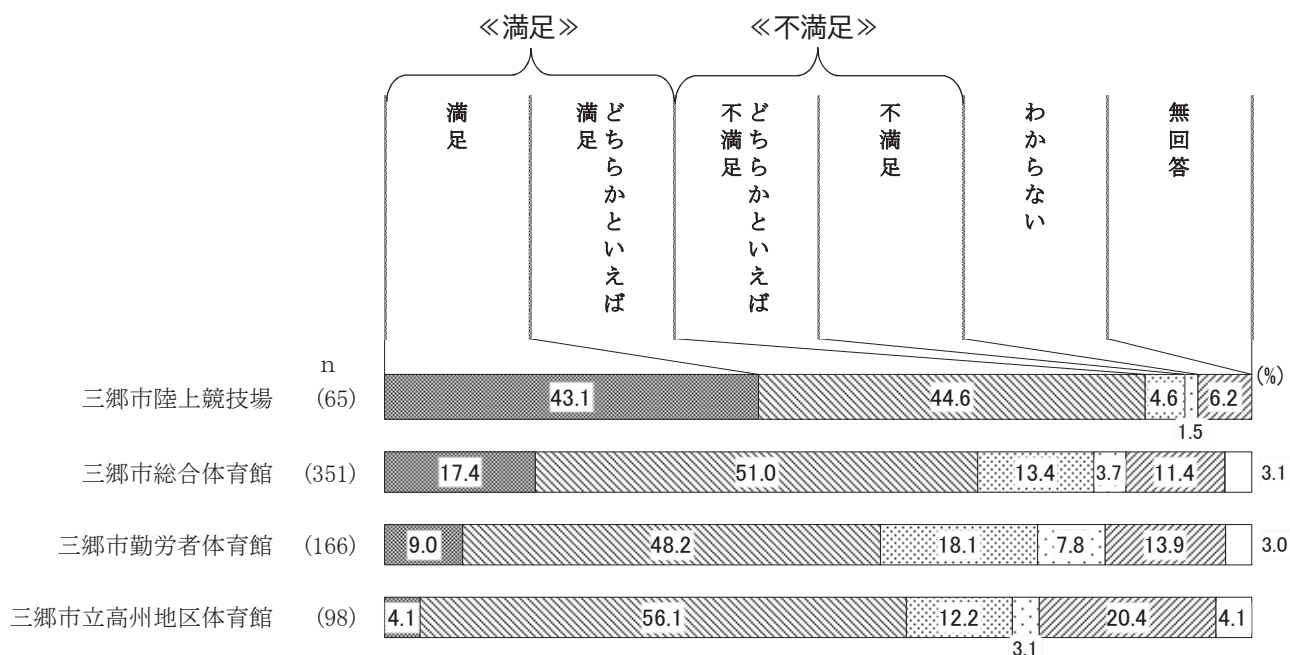
各施設を利用したことがある人の満足度については、《満足》はどの項目でも過半数となっていますが、「満足」はどの項目でも半数以下となっています。

市内高校生へのヒアリングでは、三郷市陸上競技場について屋根や日陰、休憩できる場所を求める声が見られました。

◇運動・スポーツ施設の利用有無



◇運動・スポーツ施設の満足度

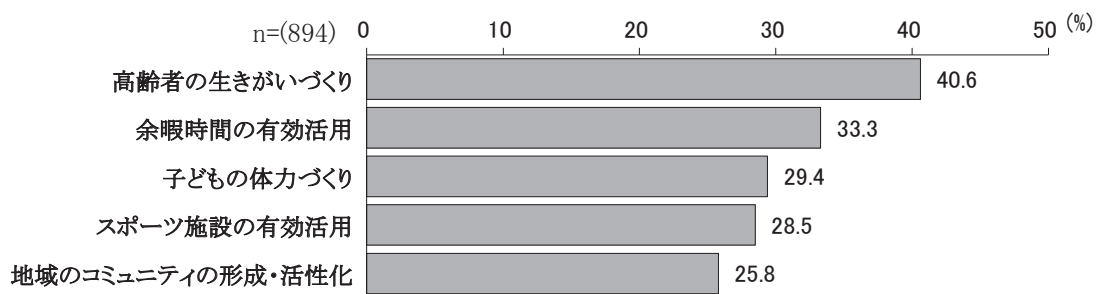


【地域におけるスポーツの役割について市に期待すること】(市民アンケート 上位 5 項目)

●高年齢層で「高齢者の生きがいがづくり」を期待する声が多くなっています。

「高齢者の生きがいがづくり」が 40.6%で最も多く、次いで「余暇時間の有効活用」が多くなっています。「子どもの体力づくり」、「スポーツ施設の有効活用」などと回答が分散しています。

年代別でみると、高年齢層で「高齢者の生きがいがづくり」を、若年層で「子どもの体力づくり」を期待する声が多く見られます。



◇年代別

	高齢者の 生きがいがづくり	余暇時間の 有効活用	子どもの 体力づくり	スポーツ施設の 有効活用	地域のコミュニティの 形成・活性化
18～29 歳	21.9%	40.6%	35.9%	39.1%	32.8%
30～39 歳	18.8%	37.6%	54.5%	34.7%	29.7%
40～49 歳	27.7%	34.5%	39.5%	35.6%	29.9%
50～59 歳	35.2%	36.6%	17.9%	34.5%	24.8%
60～69 歳	54.3%	36.4%	19.7%	23.7%	24.3%
70 歳以上	60.7%	24.8%	22.0%	17.3%	21.0%

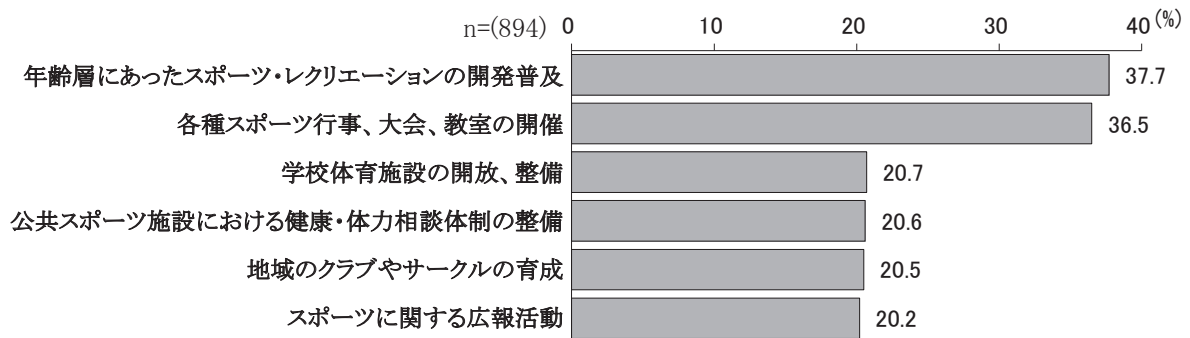
【市のスポーツを推進するために力を入れるべきこと】(市民、団体アンケート 上位5項目)

●あらゆる年代に向けたスポーツやイベントの開催、施設の整備など多岐にわたります。

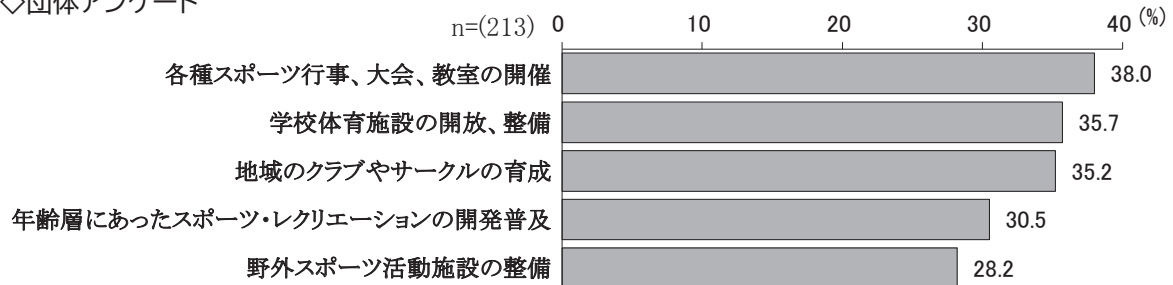
市民アンケートでは、「年齢層にあったスポーツ・レクリエーションの開発普及」(37.7%)や「各種スポーツ行事、大会、教室の開催」(36.5%)がそれぞれ約4割で特に多くなっています。

団体アンケートでは、「各種スポーツ行事、大会、教室の開催」、「学校体育施設の開放、整備」、「地域のクラブやサークルの育成」が約4割と特に多くなっています。

◇市民アンケート



◇団体アンケート



(2)課題

これまで示してきた三郷市を取り巻く現状や、前計画の事業実施状況調査、市民アンケート及びヒアリング等の調査を踏まえ、今後取り組むべきスポーツ施策の課題を以下のように整理しました。

【スポーツについてのさらなる意識の醸成】

本市の週1回以上のスポーツ実施率は、改善の余地があります。スポーツには、体力向上や運動不足解消、健康づくりなどが期待されることから、スポーツ実施率の向上に向けた取り組みが必要です。

また、10代から50代までのスポーツ実施率が、全体の割合(35.8%)を下回っています。これは、働く世代や子育て世代が、仕事・家事・育児で忙しいためスポーツに充てる時間の確保が難しいことが一因と考えられます。一方で、健康維持への関心が特に高い高齢者へのスポーツ施策の検討も必要です。忙しい中でも気軽にスポーツができるきっかけづくりや、ライフステージに応じたスポーツ機会の提供など、様々な年代に合わせた施策を展開する必要があります。

【東京 2020 オリンピック・パラリンピックを契機とした取り組み】

本市は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催決定を契機として、オリンピック聖火リレールートに選定され、また、ギリシャ共和国のホストタウンとしてこれまでも様々な交流を行っています。このような世界最大規模のスポーツイベントをきっかけとして、スポーツをより身近に感じられる施策を展開していくことが重要です。

また、ギリシャ共和国のホストタウンとして、今後も引き続きスポーツを通じたレガシー(=遺産)を構築するための国際交流の推進に取り組む必要があります。

【障がい者スポーツへの取り組み】

市民の障がい者スポーツへの関心が「ある」「ない」の割合は同程度となっていることから、まずは障がい者スポーツについての理解を深めていくことが必要です。また、障がい者スポーツ用具の購入費補助などの参加促進の取り組みも現状未実施にとどまっています。市民が障がい者スポーツに触れる機会の創出、施設・環境の整備やイベントの開催といった取り組みが求められています。

【スポーツ施設の利活用と整備】

バリアフリー等の視点から、安全性や快適性を第一とした適正な施設の維持・管理を今後も継続することが必要です。また、平成 30(2018)年に完成した三郷市陸上競技場をはじめ、スポーツ施設を利用したことがある人は全体的に少なく、満足度もさらなる向上が見込めます。また、広域競技スポーツ大会の実施には至りましたが、誘致数を増やすなど改善の余地があります。スポーツ施設整備の充実についても市民、団体からのニーズがあり、地域での利用頻度、新規利用を増やす取り組みや、将来にわたって地域で利用される満足度の高い施設運営ができるよう、さらなるサービスの質の向上を図り、スポーツができる環境を整備していくことが重要です。

【スポーツ関係団体への支援等】

スポーツ団体は新規参加者が増えないという課題のほか、施設不足や、指導者等の人材不足、高齢化等による後継者不足にも悩まされています。地域のスポーツ活動を支えるために、市民への積極的な情報提供や、団体への支援、人材の発掘・育成が求められています。

7 前計画の数値目標の評価

前計画で設定された数値目標の現状値につきましては、次のとおりです。

指標名	前回値※1	令和2年度 目標値	現状値※2
1)週1回以上スポーツをする人の割合	32.6%	50.0%	35.8%
2)スポーツ団体に入っている小学5年生の割合	50.5%	60.0%	46.8%
3)学校の運動部に入っている中学2年生の割合	73.4%	75.0%	55.3%
4)総合型地域スポーツクラブ数	2団体	2団体	2団体
5)学校体育施設利用団体登録数	316 団体	384 団体	287 団体
6)地区スポーツ大会の開催			
①開催数	①33 回	①40 回	①30回
②参加者数	②2,910 人	②4,000人	②3,641 人
7)各種スポーツ教室の参加者数	延べ 1,063 人	延べ 2,000 人	延べ 1,246人
8)スポーツ・レクリエーション団体の加盟団体数			
①体育協会	①285 団体	①330 団体	①228 団体
②レクリエーション協会	②150 団体	②150 団体	② 86 団体
③スポーツ少年団	③ 15 団体	③ 20 団体	③ 15 団体
9)スポーツ競技大会出場者数			
①種目数	①13 種目	①15 種目	①22 種目
②出場者数	②延べ 39 人	②延べ 50 人	②延べ 80 人
10)スポーツ団体によるスポーツ行事参加者数	9,556 人	9,000 人	11,036 人

※1 前回値について

- 1)～3) 「スポーツに関する市民意識調査」(平成 21(2009)年度実施)
- 4)～10) 平成 20(2008)年度の実績(資料:スポーツ推進課)

※2 現状値について

- 1)～3) 「三郷市スポーツ推進計画策定にかかる市民意識調査」(令和元(2019)年度実施)
- 4)～10) 令和元(2019)年度の実績(資料:スポーツ振興課)

前回値と現状値で比較すると、週1回以上スポーツをする人の割合は、前回からわずかに上昇が見られますが、目標の達成に向けて、さらなる取組みの強化が必要です。また、スポーツ団体に入っている小学5年生、学校の運動部に入っている中学2年生それぞれの割合は、前回から減少しており、子どものスポーツ離れがうかがえます。

学校体育施設利用団体登録数と体育協会、レクリエーション協会の加盟団体数は前回から減少しており、各団体への積極的な働きかけが必要です。